

「トライスクール」 - シナリオ

【表紙】

作品タイトル
「トライスクール」

鎌田勝浩 作

（かまだかつひろ）

原稿枚数 25枚 / 2000字詰め原稿用紙換算
74枚 ≡ 20文字 × 736行（本、次頁含まず）

電子メール kamada@kii.co.jp

「トライスクール」 - シナリオ

☐
ト
ラ
イ
ス
ク
ル
☐

相 沢 翔 （ あ い ざ わ し よ う ・ 1 9 ）	広 沢 さ と み （ ひ ろ さ と み ・ 1 9 ）	山 之 内 達 也 （ や ま の うち た つ や ・ 2 1 0 ）	中 條 哲 史 （ な か じ よ う さ と し ・ 2 1 ）	小 椋 純 （ お ぐ ら じ ゆ ん ・ 1 8 ）	登 場 人 物	脚 本 鎌 田 勝 浩
---	---	---	---	--	------------------	--------------------------------

「トライスクール」 - シナリオ

山之内「さうでなけりゃ、困るよな。あのマ
中條「初めにしては、落ち着いていたよう
広沢「あの子、大丈夫だった？」
中條「あ、いいよ。大丈夫です。」
相沢「部長、いいよ。戻ってくださ
中條「さーキット・ピット（昼）
小椋「立ち去る中條を見送って。バイザーを下ろし
小椋「はい、中條先輩。頑張ります！」
中條「小椋、時間だ。落ち着いていけ。（小椋
の肩を叩いて）大丈夫だ。お前なら出来る。
じやあな。（片手を上げて挨拶し、素早く立
ち去る）」
会場「ドライブ以外はコースから出てくださ
会場「エンジン音は聞こえない。
整中。燃料電池の電動機駆動なので、工
カニツク各12名が取り巻き、最終調
つている。その周りにはサポートするメ
ち。横に3列に並んでレースの開始を待
に改造三輪車22台およびその搭乗員た
周約650名。サーキットのスタート位置
会場（筑波サーキット・コース1000。一
電動機付き改造三輪車4時間耐久レース
筑波サーキット・スタート位置（昼）

「トライスクル」 - シナリオ

相小
 沢 小
 乗 - -
 り 小
 ま 小
 す さ
 か ん
 ら 、
 - や
 り
 ま
 し
 しょう
 う
 よ
 。
 僕
 も
 交
 代

ね
 い
 か
 ら
 、
 譲
 っ
 て
 あ
 げ
 た
 の
 よ
 。
 勝
 っ
 た
 の
 方
 が
 た

軽
 い
 か
 ら
 、
 譲
 っ
 て
 あ
 げ
 た
 の
 よ
 。
 勝
 っ
 た
 の
 方
 が
 た

か
 た
 の
 よ
 。
 (咳
 払
 い
 を
 し
 て)
 あ
 な
 た
 の
 方
 が
 た

は
 な
 い
 よ
 ね
 。
 :
 大
 体
 、
 本
 当
 は
 、
 私
 が
 、
 出
 た
 手

が
 自
 動
 車
 部
 と
 し
 て
 も
 、
 当
 然
 、
 参
 加
 し
 な
 い
 手

の
 単
 位
 で
 参
 加
 で
 き
 る
 よ
 う
 に
 な
 っ
 て
 ね
 、
 我

最
 近
 は
 、
 授
 業
 に
 関
 わ
 り
 無
 く
 、
 サ
 ー
 ク
 ル
 な
 ど

を
 借
 り
 切
 っ
 て
 大
 々
 的
 に
 行
 う
 事
 に
 な
 っ
 た
 の
 。
 ト

ら
 、
 他
 大
 学
 も
 交
 え
 て
 あ
 の
 筑
 波
 サ
 ー
 キ
 ャ
 ト

な
 ん
 だ
 け
 ど
 。
 そ
 れ
 が
 好
 評
 で
 、
 環
 境
 元
 々
 、
 そ
 う
 ち

の
 学
 長
 が
 数
 年
 前
 に
 授
 業
 の
 一
 環
 で
 元
 々
 、
 そ
 う
 ち

沢
 部
 で
 し
 よ
 ?
 こ
 こ
 で
 三
 輪
 車
 な
 ん
 で
 す
 か
 ?
 自
 動

小
 車
 部
 で
 し
 よ
 ?
 こ
 こ
 で
 三
 輪
 車
 な
 ん
 で
 す
 か
 ?
 自
 動

小
 車
 部
 で
 し
 よ
 ?
 こ
 こ
 で
 三
 輪
 車
 な
 ん
 で
 す
 か
 ?
 自
 動

山
 之
 内
 「
 そ
 う
 。
 今
 回
 の
 レ
 ー
 ス
 、
 改
 造
 三
 輪
 車
 4

小
 車
 部
 で
 し
 よ
 ?
 こ
 こ
 で
 三
 輪
 車
 な
 ん
 で
 す
 か
 ?
 自
 動

中
 條
 お
 前
 が
 、
 一
 番
 軽
 い
 か
 ら
 だ
 -

つ
 て
 、
 私
 な
 ん
 か
 :
 -
 軽
 い
 か
 ら
 だ
 -

小
 車
 部
 で
 し
 よ
 ?
 こ
 こ
 で
 三
 輪
 車
 な
 ん
 で
 す
 か
 ?
 自
 動

小
 車
 部
 で
 し
 よ
 ?
 こ
 こ
 で
 三
 輪
 車
 な
 ん
 で
 す
 か
 ?
 自
 動

小
 車
 部
 で
 し
 よ
 ?
 こ
 こ
 で
 三
 輪
 車
 な
 ん
 で
 す
 か
 ?
 自
 動

「トライスクール」 - シナリオ

相 沢 ないけど。(指差して)あと、相沢君もね
 相 沢 どのも(部品のヤスリがけの手を止め
 小 椋 あ、じゃ、私も何か
 広 沢 いや、小椋さん、それは良いわ。あな
 たはトレイングの方が先決ね。どうせ大
 した助けにもならないでしょうし
 手早く手元を片付けて、立ち上がって
 相 沢 君、一段落ついたら、来てちょうだい
 相 沢 はい、分かりました、先輩
 小 椋 広沢、部室を出て行く
 山 之内 部長、予算を使い過ぎです。少し、
 節約してもらわないと
 中 條 困ったな。でも、必要な物は
 買わなきゃならいし。達也、何とかし
 てくれ。頼りにしてるよ(肩を叩いて立ち
 去る)
 山 之内 本当、哲史には困ったもんだ。さ
 あて、どうするかな(頭をかく)
 相 沢 部長、こんなもんでどうですか？
 中 條 手に持った部品を示す
 中 條 うん、そうですね。こんなもんかな？寸
 法は大丈夫だよ？
 相 沢 はい、何度も確認しました
 中 條 じゃあ、向こうのチームに渡して、組
 み立ててみてくれ(指を指す)
 * * *

「トライスクール」 - シナリオ

小 中 小 小 山 中 中 中 中 相 中 小
 椋 條 椋 椋 之 條 條 條 條 沢 條 椋
 「 「 〔 M 〕 「 内 〔 〕 〔 〕 〔 〕 〔 〕 〔 〕 〔 〕 〔 〕 〔 〕
 スタートします」 じゃ、小椋さん、始めようか。スター
 勢は。ちよつと恥ずかしいよう」 この
 小椋、三輪車にまたがる 準備はいいかい？」
 純ちゃん、準備はいいかい？」
 じゃ、テスト走行を始めるぞ」
 走りをしている。三輪車を持ち込んで、ステ
 駐車を開けて、広い場所を確保してい
 大学・駐車場（昼）
 調べてみるぞ」
 やっぱり、そうか。よし、止めろ。開
 静かに！へスロツトルを動かしながら
 始める。起動する。モーターが回転を
 台に乗せ、後輪部を浮かせる。スロツト
 近づくいている。クがある。ほぼ完成
 後部には補助バッテリーがついてい
 裏には燃料電池ユニットがつけ、座
 三輪車の後輪部にモーターが付き、
 んです。ね」なる三輪車が、こんな風にな
 る」

「トライスクール」 - シナリオ

相沢「なにっ！」
中條「よしっ。みんな、手を貸せっ。三輪車を止めるぞ。」
中條以下数名、三輪車の進路を塞ぎ、体で止めようとする。
* * *
小椋、階段に座っている。山之内以下数名、三輪車を調べている。
中條「どうだ、山之内、何か分かったか？」
山之内「うーん、ダメですね。幾つか問題点が見つかりました。これは最悪、設計変更を含めて、手直しが必要そうです。またお金を掛かりそうで、頭が痛いですよ。」
中條「（頭を抱えて）うーん、痛いなあ。あと3週間、何とかなりそうか？」
山之内「うーん。何とかなら、思いますが。」
中條「よし、意味で厳しいです。」
中條「よし、大会までに、何とかみんなの間、合わすぞっ！」
一同「（少し力なく）おーっ。」
中條「よし。部室に戻るぞ。」
一同、三輪車と共に移動を始める。
中條「（振り返って）小椋君、大丈夫？少しは落ち着いた？」
小椋「（立ち上がった）は、はい。もう、大丈夫です。」
中條「ごめんね、びっくりさせて。」
小椋「（恥ずかしそうに）い、いえ……。」
中條「でも、おかげで問題点がはつきりしたよ。これさえ直せば、レースに出られる。」

「トライスクール」 - シナリオ

と好みかな」
中條「お嬢さん、うちのサークルに入らない？
入ろうよ」
小椋「えーっ、どうしようかな」
中條「そうしようよ。とりあえず入ってみようよ。きっと良い事あるから」
小椋「（少しためらって）そうね、じゃ、入ってみようかな」
中條「はい、決まり、決まりね。一名様ご入会！」
大学・駐車場（夕）
新歓の回想から戻る。
小椋（M）「あれが、間違いだっただのね。ちよつと中條先輩のルツクスに騙されて、入ったおかげでこんな苦労をして、今から考えれば、きっと私がこんな小柄で、軽そうだったから、あーあっ、だまされたっ。少し休ませてください」
相沢「広沢先輩、足が疲れました。少し休ませてください」
広沢「しょうがないわね。分かったわ。じゃ、ちよつと休憩しましょう」
小椋、相沢、三輪車から降り、その場に座り込む
広沢「どう？少しは三輪車が自分の手足のようになつた？」
相沢「もう、足が棒ですよ」
広沢「そうじゃなくって！」
一同、笑い
小椋「でも、だいたい慣れました。あの格好を

「トライスクール」 - シナリオ

山之内「なに、部員みんなが頑張ってくれたからさ」と、喜ぶ部員達に視線を向ける」

中條「(部員達を見ながら) そうだな」

一同、喜びあっている

中條「(手を叩いて) よし、今日はここまで」

一同、静まって、中條に注目する

中條「明日はいよいよレース当日だ。本番はこれからだ。レースでも、しっかり働いてくれ。もう残り時間はないが、明日に備えて今日はゆっくり休んでくれ。明日は、朝7時にここに集合。以上、解散」

一同、お互いに労いながら、散っていく

帰りかける小椋に声をかけて

中條「あ、小椋、ちよつと待って」

小椋「(振り返って) はい、何でしょう、部長」

中條「(小椋の側に近づいて) いよいよ本番だな。明日は頼むよ」と、肩を叩く」

小椋「(緊張して) はい、頑張ります」

中條「(笑って) 今からそんなに緊張していてどうする。気楽にいきましょうよ、気楽に」

小椋「はい、はい、先輩」

中條「じゃ、今日はゆっくり休んで。寝坊するなよ。じゃあな(と立ち去る)」

小椋「はい、先輩、おつかれさまでした」

* タイトル後の一連の回想シーン、ここまで

サーキット・コース上(昼)

サーキットコース上をレース中。小椋が改造三輪車に乗って走っている

山之内(オート)「純ちゃん、あと1周したら、

「トライスクール」 - シナリオ

中 條「よし、現在のところ、順位は6位だ。
頑張って一つでも順位を上げてくれ」
相沢（オチ）「了解です。頑張って走ります」
中 條「（振り返って）山之内、どうだ？」
山之内「うん、ラップタイムが1分20秒台
前半だから、時速にして29キロつてここ
るか。まあまあ数字だな。だた、順位を
上げるとなると、10秒台が欲しいところ
だな」
サークィット・ピット奥（昼）
小 椋「へルメットを側に置き、皮ツナギ
を緩めて、ソファに横になつて休息して
いる。中 條、奥に入つてくる」
中 條「小 椋、お疲れ。どうだ調子は」
小 椋「（起き上がった）あ、部長。ちよつと疲
れました。が、大丈夫です」
中 條「そうか。お疲れさん。レースも半分を
過ぎた。休んだらあと1回、この調子で頑
張つてくれ。期待してるよ」
小 椋「はい。（ためらつて）あの、先輩。一つ
聞いても良いですか？」
中 條「なんだ？」
小 椋「（ためらいがちに）えーと。先輩が私を
部に勧誘したのつて、やつぱり私が小さく
て軽そうだったから、なんですか」
中 條「（驚いて）え、そんなこと、あるわけな
いじゃない。確かに、お前をドライバりに
選んだのは、お前が軽量級だったからだけ
ど、それは結果的に部員の中でそうだった
だけで、別にそういう人を選んで勧誘した

「トライスクール」 - シナリオ

訳じゃないぞ。それに……」

山之内（オー）「（突然）哲史、大変だ。問題が起きた。ちよつと来てくれ」

中條「（振り向いて）あ、分かった。今行く。（小椋の方に向き直して）何かあったようだ。その話はまたあとにしよう。じゃ」

小椋「はい、じゃあ、またあとで」

小椋、呆然と見送る

サーキット・ピット（昼）

相沢、予定より早くピットインしている。山之内が中心になって、三輪車を調べている。相沢ら、心配そうにそれを見ている。

中條「（近寄って来て）どうした、達也。何があつた」

山之内「アクシデントだ。どうも、ブレーキを使いすぎたらしく、タイヤが思ったより早く摩耗している。交換しないと、もう走れない」

中條「交換用のタイヤは無いのか？」

山之内「いや、幸い、それは有る。念のため用意しておいたのが、役に立った。ただ……」

中條「どうしたんだ」

山之内「ただ、想定外だったので、交換すると、問題が起きるんだ」

中條「問題？」

山之内「うん。時間を掛ければ大丈夫なんだが、レース中にそんな時間はかけられない。そうすると、設計上、タイヤを交換すると、ブレーキが、ブレーキが利かなくなるんだ。

「トライスクール」 - シナリオ

モーターを使った回生ブレーキ以外は、
中條「ブレーキ、か。困ったな、それは」
山之内「まあ、停まらない訳ではないんで、
何とかなる事はなるんだが、微妙なブレー
キング調整が出来なくなる」
中條「そうすると、体重が重いと、不利だな」
山之内「うん。それに、相沢君は、マシンを
ここのまで何とか騙し騙し持つてくるのでか
なり疲労している」
中條「そうすると、(時計を見て)小椋君にち
よつと長く乗って、もう必要があるか」
広沢「ちよつとつて、まだ1時間近くも残つ
てるんですよ。それは無茶じゃ」
小椋(オフト)「私、やりますっ！」
広沢「一緒に振り返るとそこにいつの間にか小
時間近くも残ってるのよ。倍近い時間だわ」
小椋「大丈夫です。それに、ここで諦めたら、
この2ヶ月間の私たちの苦労は、一体どう
なるんですか！」
広沢「純ちゃん：」
中條「そうだな。ここで議論している時間も
もつたいない。よし、とりあえず、ここ
は小椋にやつてもらおう」
小椋「はい！ありがとうございます、部長」
山之内「純ちゃん、無理しなくてもいいから
ね。行けるとこまでいいから」
小椋「いえ、やりませう。皆さん！」

「トライスクール」 - シナリオ

小 椋 (M)「最初の緩い大きな右カーブに差し掛かる
 なきゃ。ここは、スロツトルは戻さない！」
 小 椋 (M)「何だ、大丈夫じゃない。これなら
 フルスロツトルでも大丈夫」
 小 椋 (M)「流石にここは、スピードを落とさ
 ない訳にはいかないわね。でも、出来るだ
 け高速で回れるようにっ」
 スロツトルを少し戻し、上体を被せるよ
 うに、思いつき右に体重をかける。
 すると、左後輪が一瞬、浮き上がる
 あわてて体重の掛け方を戻して
 小 椋 (M)「きゃっ。危ない危ない。体重の掛
 け過ぎね」
 小 椋 (M)「なるほど、だんだん感覚を掴んで
 来たわ。次は左カーブ」
 体重を預けながら、左の急カーブを曲が
 っ ていく
 サークット・ピット(昼)
 目の前を小椋が駆け抜けていくのを見送
 つて、山之内がラツプタイムを計って
 山之内「よしっ。ええと、なんだこりゃ」
 中 條「どうした、達也」
 山之内「嘘みたい、なタイムが出ている。1分
 7秒23だ？これはい平均時速35キロ
 中 條「ない出てるぞ」
 小 椋「」

「トライスクール」 - シナリオ

山之内「うーん、ブレーキを外したから、多
 少は軽くなっているとはいえない、ここまでは
 中條「そうかつ。今まではブレーキを掛けて、
 エネルギを熱にして放出して無駄にして
 いたんだ。それが、今は回生ブレーキしか
 使っていないから、減速のエネルギーが、ほ
 とんど補助バッテリーに貯まって、その工
 ネルギで直線を走るから、直線での速度
 が上がっているのだ！
 山之内「なるほど、そうかつ。これはひよつ
 とするのと、ひよつとするかもしれないぞ」
 中條「ヘッドセットのマイクに向かって」お
 いっ、小椋「あんまり無茶するなよ。あ
 と、タイヤの減り方にも注意しろ。もう交
 換できないんだから」
 小椋「オ、はい、わかりました」
 サークルは、コイスウ（昼）
 時折何台かのリタイアマシンを横に見て、
 小椋のマシン、順位を上げていく
 を攻めて、順位を上げていく
 サークルピット（昼）
 目の前を小椋が駆け抜けていくのを見送
 つて、山之内「ええと、なに！」
 山之内「よしっ。ええと、なに！」
 広沢「今度はどうしたのよっ！」
 山之内「5秒85だ？ついに1分を切っ
 たぞ。こいつ、どんどん速くなってやがる」
 中條「おいつ、今、何位くらいだ？」
 広沢「えーと。：なにこれ。一時は15位ま

「トライスクール」 - シナリオ

で落としたのに、今はもう、16台中、6
位よー
中條「あと、(時計を見て)約15分か。これ
は本当にひよつとすると、ひよつとするか
もなー
相沢「純ちゃん、すごいー
サ「キット・コース上(昼)
小椋、走行中
山之内(オート)「純ちゃん、あと10分。もう
少し頑張つてねー
小椋「はい、わかりました。まだ大丈夫です。
あの、いま何位くらいですか？
中條(オート)「4位だ。完走が目標なんだから、
余り無理するなよ、純ー
小椋「大丈夫です。まだまだ行けますー
小椋(Ｍ)「4位だから：あと3台抜けば：ま
ずあの一台を！
左ヘアピンを抜けて、直線をフルスロット
トルで飛ばす。徐々に近づいてくる前車。
緩い左カーブを曲がって、右カーブの連
続。そこで勝負に行く小椋のマシン。
小椋(Ｍ)「そこっ、そこで抜いてやる！
ピット前の直線に入る最後の90度右カ
ーブで、前車の内側に入り込んで抜き去
り、直線で加速する
小椋(Ｍ)「やったあ。あと2台！
サ「キット・ピット(昼)
目の前を小椋が駆け抜けていくのを見送
らつて、山之内がラップタイムを計りなが

「トライスクール」 - シナリオ

	山	廣	相	一	一	山	レ	ア	会	相	廣	山
	之	沢	沢	同	同	之	9	ナ	場	沢	沢	之
て	内	部	ガ	ガ	そ	一	、	ウ	で	、	、	内
く	、	員	ヤ	ヤ	の	同	8	ン	ア	小	、	、
る	、	達	、	、	声	、	、	ス	ナ	サ	い	あ
°	終	中	お	や	に	軽	7	、	ウ	、	、	よ
一	わ	條	つ	つ	応	い	、	レ	ン	ト	い	し
同	た	の	か	た	え	放	6	、	、	、	け	っ
の	°	付	れ	、	る	心	、	ス	ス	、	、	、
歡	よ	近	さ	、	よ	状	5	終	レ	現	コ	当
声	う	に	ま	！	う	態	、	了	、	在	、	に
の	に	集	、	、	に	、	4	、	ス	1	！	や
中	、	ま	、	、	、	、	、	3	終	5	、	る
で	へ	、	、	、	、	、	、	、	了	台	、	か
、	戻	、	、	、	、	、	2	、	ま	が	、	も
停	っ	、	、	、	、	、	、	1	で	走	、	、
止	、	、	、	、	、	、	、	、	、	行	、	、
し	に	、	、	、	、	、	、	、	あ	中	、	、
°	戻	、	、	、	、	、	、	、	と	°	、	、
マ	っ	、	、	、	、	、	、	、	1	分	、	、
		う	う	う	う	う	°	秒	分			

「トライスクール」 - シナリオ

広	部	小	小	を	の	一	広	相	小	広
沢	助	沢	小	を	の	一	沢	ね	沢	う
「	「	「	「	忘	お	度	「	「	「	来
お	我	手	こ	え	れ	祭	そ	三	え	年
わ	ら	席	動	れ	つ	な	「	輪	つ	の
り	が	の	な	か	？	い	「	車	「	話
」	芝	小	の	ら	「	で	新	レ	ど	な
	大	小	の	ら	「	で	新	レ	ど	な
	大	小	の	ら	「	で	新	レ	ど	な
	自	の	「	が	「	ね	歡	ど	改	「
	動	方	よ	「	「	の	延	こ	三	「
	車	を	う	「	「	の	長	れ	輪	「
	部	向	や	「	「	の	の	は	車	「
	に	い	く	「	「	よ	う	あ	耐	「
	「	て	本	「	「	う	な	く	久	「
	よ	「	格	「	「	な	も	ま	レ	「
	う	笑	的	「	「	の	の	で	「	「
	こ	顔	な	「	「	の	の	年	ス	「
	そ	で	自	「	「	の	の	に	は	「
	「		動	「	「	そ	そ	一	年	「
			車	「	「	れ	れ	度	に	「